

ぎやらりー わ

NO.77

2017年 1月号



●花の村内散歩
サザンカ (藤田健一撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (小畑 浩昭) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL.078-743-8101 FAX743-3830

熊本地震サポート隊 益城町訪問

仮設の住民に寄り添う



11月11日～13日

プロ級の腹話術に子ども達も大笑い (赤井仮設団地で)

NPO法人グループわの熊本地震サポート隊が11月11日～13日、熊本県益城町を訪問しました。阪神淡路大震災の折、国内外から支援をいただいたことに感謝の気持ちを含めての事です。11日は、まず益城町役場に挨拶後、たこ焼き器やその具材を調達。12、13日は仮設団地4か所を午前と午後に分けて1か所ずつ回りました。各団地では演芸(マジック、腹話術、民謡、手話ソング)を披露。その合間に被災者と一緒なたこ焼きを焼き、笑いと笑顔を届けました。昨年4月に震度7の地震に2度襲われた益城町では、壊れた家の解体作業は今も続いています。(文 大槻隆文 写真 古後健一・細越真由美=いずれもサポート隊員)

2、3面に関連記事 12面に写真グラフ



ボランティアの
輪をひろげよう

77
号の
内容

〈わ〉 設立20周年式典は7月22日 4面

広陵小3年生に環境体験学習	3面	ボランティア最前線	7面
海と魚と暮らしを考えるシンポ	5面	活動レポート(部会、区会)	8～10面
ボランティアの心	6面	カレッジだより	10面
学習支援者 秋の集い開く	6面	WAからのお知らせ	11面

「わ」総会
5月20日

益城町サポート ありがとう

▼うまく焼けるかな 仮設の住民とたこ焼き作り (小池島田団地)

「はるか遠い神戸からボランティアに来てくださり、ありがとうございます」一。仮設住宅団地の住民は熊本地震サポート隊に心から感謝していました。明石風のダシ汁のたこ焼きは初めてで「美味しか、珍しか」と大好評でした。

今回の訪問は、「たこ焼きパーティー&お好み演芸会 神戸から」と銘打ち、益城町の仮設住宅団地4か所で、各団地自治会、グループわと今回の活動に種々の援助をいた

だいた神戸市社会福祉協議会の3者が主催者となって実施しました。

熊本サポート隊は11日、益城町役場を訪問、小畑理事長は「仮設団地に元気になってもらおうとやってまいりました」と挨拶、町役場復興課の大山参事は「あ

りがとうございます」と答えました。ホームセンターでは、たこ焼き器10台のほか、包丁などを買入れ。たこ焼きの具材としてスーパーでたこ、たこ焼き用の粉、卵なども仕入れられました。

12日午前には赤井仮設団地(35戸)。笠井浩之自治会長ら40人が参加(うち子どもは15人)。



古後さんのマジックの演技
(赤井仮設団地)

近くの住民にも声をかけていただきました。12日午後には小池島田仮設団地(95戸)。増田敏一自治会長ら70人が参加。13日午前には安永仮設団地(70戸)。橋本芳美自治会長ら40人が参加(うち子ども10人)。13日午後には飯野小仮設団地(48戸)草野圭介自治会長ら60人(うち子ども10人)が参加しました。

活動時間は、各団地2時間半を目途にし、1日目は、挨拶等10分の後、マジック・腹話術30分、たこ焼き1時間20分、民謡・手話ソング30分で行った。2日目は、演芸の前半後半を逆にし、演芸とたこ焼きを同時スタート、演芸を少しでも長く楽しんでいただきました。



活動は、最初に自治会長が挨拶、続いて小畑理事長も挨拶し、市社協職員の細越さんを紹介。その後、小畑理事長が市民福祉振興協会から預かってきた福祉団体の制作物を自治会長に贈呈し、また細越さんが井吹台児童館の皆さんからの寄せ書きを自治会長に手渡しました。このほか、たこ焼きのレシピを入れたくまモンのクリアファイルもプレゼント。

古後さんのマジック、田山さんの腹話術には、子どもも大人もお年寄りも笑い転げ「プロ級の技」と感心。三味線・民謡では、波多野、蔵本さんが歌詞カードをあらかじめ配り熊本地区民謡「おてもやん」や福岡県民謡「九州炭坑節」などを住民が手拍子を打って歌い、節に合わせて踊りの輪も出来ました。手話ソング・体操では阪神大震災復興の歌「しあわせ運べるように」。橋本、井上さんが手本を示し、住民もそれに合わせます。みなさん大いに楽しんだようでした。

たこ焼きは団地の方々も一緒にクルリクルリとひっ

熊本サポート隊メンバー	
団長	小畑浩昭理事長 事務局 大槻隆文理事
演芸チーム	◇波多野武郎さん(食16 民謡・三味線) ◇古後健一さん(福18 マジック・子ども遊び)◇橋本敏代さん(福19 手話ソング・体操)◇田山映二さん(福22 現役学生 腹話術)
たこ焼きチーム	◇根角光宣さん◇井上久美子さん ◇蔵本公子さん◇夏木久子さん(いずれも食20)
神戸市社協職員	細越真由美さん=たこ焼きチーム

くり返します。熊本ではたこ焼きはソースでしか食べられないようで、だしで食べることにびっくり。たこ焼き器10台は各団地に2~3台ずつ贈呈しました。

益城町では11月14日に最後の仮設住宅の建設が終了、18団地1562戸となっています。

(文 大槻隆文 写真 古後健一・細越真由美)

◆◆ 訪問メンバーの感想 ◆◆

◆井上久美子さん たこ焼き(明石焼き)大好評でした。「こげん美味しかたこ焼きは、初めて食べた」「珍しか。食べやすか」と次々嬉しいおほめの言葉を頂きながら、食文20期4人は、仮設の方と交流しながら、たこ焼き(明石焼き)を焼きました。「しんどかったけど楽しかった」の言葉に尽きます。

大人も子供も笑い転げる

◆橋本敏代さん 被災者が思いのほか明るいことに救われました。ハードスケジュールの中、全隊員がフル回転でがんばり、その責任感と集中力は素晴らしいものでした。いろんな出会いを得て、私の人生のポケットがまたひとつ増えた気がします。

◆古後健一さん

益城町の皆さんに元気と笑いを届けることができたと自負しています。とくに「たこ焼きパーティー」と「お好み演芸会」の



壊れた家の解体作業は遅れがち

コラボ企画がよかったと思います。両チームとも精鋭がそろい、どこでもたいへん喜んでいただきました。大人も子どもも笑いころげてくれて、印象深い交流となりました。

◆波多野武郎さん 私は「民謡・三味線」担当として参加しました。被災者の方々にも一緒に唄って貰いたくて馴染みの歌を選曲。「おてもやん」と「九州炭坑節」は唄と踊りで大変、盛り上りました。あるおばあさんは笑顔で「久しぶりに大声で唄って楽しかったわ」と言ってくださり安堵。

◆田山映二さん 絶望の淵に苦しまれている仮設住宅団地の方々。その前で私たちは渾身の演芸とたこ焼きを披露しました。みなさんのはじける笑顔に私たちは心を揺さぶられ、涙がこぼれるほどでした。これからの私の人生は「このような方々のために働こう」と固く決心しました。

広陵小3年生と環境体験学習

里山和楽会14人が先生役

「知らないことをたくさん教えていただき、大変、勉強になった。面白かった」一。環境体験学習授業を受けた児童の感想です。

グループわの里山和楽会(道満俊徳代表)のメンバー14人は10月24日朝、北区の広陵小3年生125人を



対象に授業。広陵小近くの「かがやきの森」に入り、約3時間、散策路を歩き、秋の森の空気をたっぷりと吸いました。

児童には、あらかじめアカマツ、イヌ

ツゲ、コナラなど33種類を表にした用紙を渡しておき、見つけた樹木に○印をつけてもらいます。

森で聞こえた音、声、見つけた花、実、昆虫、鳥、動物なども用紙に記入。アカマツの切株を用意、年輪の長さをメジャーで測り、その数を数え、年輪の形を粗く描いてもらいました。

一番のメインは管理作業。樹木が増えすぎても、葉が茂りすぎても、日当たりが悪くなり、森は弱くなります。適当な伐採や剪定が必要。その手順を説明、実際にやってもらいました。大半の児童が初めての経験でノコギリ、ハサミを手に奮闘。ある女の子は「木さん、ごめん痛いでしょ」と謝っていました。森では児童は生き生きと行動、楽しんでいました。(文・写真 広報 永野知己)

水の科学博物館で餅つき大会

グループわが事業を受託している水の科学博物館で餅つき大会が12月18日朝、開かれました。小畑理事長をはじめ〈わ〉の同館スタッフ、食文化コース



出身者など約30人が参加しました。10時30分ごろ、蒸しあがったもち米を石臼に移し、餅つきが始まりました。

「ヨイショ、ヨイショ」、

「べったんこ、べったんこ」一。リズムカルに杵をつきます。子どもの飛び込みもあり、お母さんやお父さんに手を添えてもらって、足を踏みしめながら初めてつきました。この日用意したもち米は50キロ。蒸籠4段、計20籠を蒸しあげ、300人分の餅を近隣の人、〈わ〉関係者の子や孫らに無料で配りました。(文・写真 広報 永野知己)

〈わ〉 設立20周年記念式典は7月22日（土）

グループわ は今年の7月22日で、設立から20年の節目を迎えます。

20周年記念事業の各部会の検討状況の骨格について下記の通り報告します。

1. 記念式典部会

日時 2017年7月22日（土）10時～15時30分

場所 シルバーカレッジ ホール

第1部

☆式典前アトラクション…和太鼓演奏
(20期音文・和太鼓メンバー)

1. 実行委員長挨拶
2. 来賓・〈わ〉歴代代表紹介
3. 来賓代表挨拶
4. 表彰
5. グループわ 20年間の歩み（映像にて紹介）
6. 記念講演「“高齢者の”生きがい”を求めて、グループわ に期待するもの」

第2部

1. 「みんなで歌おう会」・全員参加型
曲目はアンケートにより約20曲を合唱予定
2. 神戸シルバーカレッジ 校歌斉唱
3. 閉会挨拶



2 イベント部会

1. 20周年記念いきいきグラウンドゴルフ大会（仮称）

【2017年5月10日（水）

しあわせの村：運動広場】

午前の部…個人競技

(3名/組×18組程度)

午後の部…区会・部会対抗戦

(3名/組×14組程度)



2. 囲碁・将棋大会

【2017年6月24日（土）…一ノ谷プラザ】

3. 健康マージャン大会

【2017年6月17日（土）…一ノ谷プラザ】

4. 「みんなで歌おう会」…記念式典部会と合同

5. 「20周年記念”文化祭”」（仮称）



【2017年7月23日（日）…シルバーカレッジ全館】

※出演希望クラブ意向調査中

3. 記念誌部会

直近の活動及び20周年記念式典・イベントを中心に編集し、ぐるーぷわ の活動についてより深く理解して頂く為のDVD（45分程度・テレビおよびPC用）を作成し、会員並びに関係者全員に配布予定です。

また、1月末から4月末にかけて区会長・各グループ代表の方々に郵送等により、校正及び写真の提供をお願いしますので、その節は宜しくお願いします。



また、DVDの他に、20周年特集号の編集・発行についても、並行して検討していきます。

【オールカラー・12P程度】

4. 作品展示・販売部会

1. 20周年記念作品展

【2017年7月初旬～7月23日…KSC全館他】

作品募集要領は同封！

絵画・書道・陶芸・俳句
・詩集・絵手紙・写真など

2. グループわ 看板ボード作成
3. 20年史（活動のあゆみ）



展示パネル作成



◇20周年記念DVDの放映
(記念誌部会作成版)



4. 展示販売の実施

※関係するクラブに協力要請中

☆ケナフの会 ☆エンジェル支援の会

☆チームたんすの肥やし ☆木工グループ他



海と魚と暮らしを考えるシンポ開く

兵庫県民会館 約300人参加

シルバーカレッジ主催、グループわなどが共催の「海と魚と暮らしを考えるシンポジウム」が11月14日午後、県民会館けんみんホールで開かれました。服部祥子カレッジ学長は「市民との交流も図るシンポは今回で7回目。これまで生物多様性、六甲山、水問題などタイムリーなテーマを取り上げています。海といえば〈命〉〈母なる〉を連想します。このシンポを楽しみたい」と挨拶しました。続いて吉田裕之須磨海浜水族園園長の基調講演。アントニオ TA KAさんのギターとボーカル演奏で一息入れ、最後はパネルディスカッション。(写真・まとめ 広報 永野知己)



◆基調講演「めぐる水と旅する生き物～森川街海のつながりから豊かな海について考える」
——吉田裕之須磨海浜水族園園長

イワシが無尽蔵に獲れた瀬戸内海。1980年代半ばまでは生態系のバランスがうまく維持されてきた。今、漁獲量は最盛期の半分位に減っている。

瀬戸内海は閉鎖性水域で、周りの山から栄養分たっぷりの腐葉土をふくむ水が海にそそぐ。潮の満ち引きが大きく、その流れで浅い砂の山(堆)ができる。そこに海藻のアマモが密生、魚の格好の住み家になっていた。藻場は環境さえよければ、アマモなどはいくらでも増える。海水温も夏は30度近く、冬は10度を切る。温かい海水は軽く、冷たい海水は重い。季節の変化に応じて、重い水と軽い水が入れ替わり、プランクトンが大発生、魚のエサとなり、多種多様な魚が生きていた。



瀬戸内海の干潟の多くは、河口付近に広がり、1日2回の潮汐の干満がある。そのおかげで陸上からは河川によって栄養塩や有機物が、海からは潮汐によってプランクトンが供給される。豊富な栄養で増殖した付着藻類や植物プランクトン、バクテリアは、動物プランクトン、ゴカイ類、二枚貝等多くの底生性小動物の良い餌となる。そして小動物は魚や鳥の餌となり、食物連鎖が完成する。これらの浅い場所こそが生態系のバランスを保つためになくてはならない海だ。

ところが、瀬戸内海は高度成長の時代に工場建設な

どのために大規模な埋め立てが急ピッチで進み、直立護岸の建設で藻場や干潟が激減した。赤潮が大発生したことにより、その原因となるリン、チッパが下水処理場で必要以上に取り除かれた。水質はきれいになったけれど、魚は獲れなくなった。瀬戸内海は漁獲量が減ってきたとはいえ、世界的にみると生産性が非常に高い海だ。近くで獲れ、生きの良い魚を食べたい。法改正、環境再生、社会教育、資源管理、里海の推進などにより、多様な環境に多種の生物が生きる「人と自然との共生社会の実現」をぜひ図りたい。

パネリスト 森本明(神戸市市漁協副組合長)
長岡暁子(コープ神戸地域活動推進部)
佐名川洋之(須磨海岸生物調査研究所代表)
山崎清張(お魚アドバイザー)の4氏。

コメンテーター 吉田須磨海浜水族園園長
コーディネーター 横山孝雄カレッジ講師



◆パネルディスカッション◆

横山 消費者の魚離れがいわれて久しいがー。
森本 昔、母親は専業主婦が多く、今は共働きが増えたからではないか。
長岡 親世代が日ごと、食べなくなっている。子世代は包丁を持たず、三枚おろしもできない。料理法も煮る、焼くしか知らない。魚の食べ方を広げる必要がある。生協のクッキングサポーターや県漁連の方とさばき方や料理法を教える教室を開いている。
佐名川 一番よく買う魚は、昭和40年代はアジ、イカ、サバだったが、今はサーモンとマグロ。
山崎 魚を食べると健康に大変良いことをアピールする。明石で地の魚の料理店を開いているが、新幹線に乗って食べに来る人もいる。嗜好が変わってきた。
森本 漁師になったころ、これでご飯が食べられると感じた。10年位前から難しくなった。ノリ養殖をしている。昔のノリは真っ黒でテケテケ光りおいしかったが、今は色、形はよいが、香り、甘味が劣るのは残念。
吉田 海底にすむエビやカレイは美味しい。近場の新鮮な魚を安く買うために、浅い海を大切にしよう。
長岡 消費者と現場の漁師の交流を深めることで気が付くことがある。漁を体験してその苦労が分かった。
森本 産地表示をしっかりとすることが大切。美味しい魚を食べてもらってリピーターになってもらおう。

ボランティアの心

民謡40年 人様の喜びは我が喜び

私にとって「ボランティア」とは、誰かの為ではなく自分自身を心身共に修練することだと思っています。

私と民謡や三味線との出会いは、かれこれ40年位になります。その頃はただ上手になりたいの一心でした。老人施設で勤務する機会があり、利用者とふれあう中で音楽、特に童謡や懐メロ、民謡にすこく反応する人達がいるのに気付き、昼休み時間等を利用して三味線で伴奏し、一緒に唄っていました。

その時の利用者の嬉しそうな笑顔、自分がやることが、だれかに喜ばれ、役に立っているのだと思えて私の方が嬉しくなりました。OBになってからも地域や老人施設から声が掛かると進んで訪問して来ました。カレッジに入ってからも以前からの地域イベントや施設を大切に、訪問しております。

同じところに行くのに同じ曲目ばかりと言うわ



熊本益城町の赤井仮設団地で

けにはいきませんし、マンネリ化は禁物です。となると新しい曲目、違うジャンルのものも覚えなくてはなりませんし、それなりの練習も疎かにはできません。遣っていくうちにこれまで出来なかった事もやれるようになったり、人前で話すことが苦手だったのが、楽しくさえ思えるようになりまし

た。それがカレッジに入り、更にいろんな出会いを体験しました。民謡同好会に入り、そしてそのOBの民謡クラブでの活動、民謡同好会後輩の指導、育成もそれです。また、それらがきっかけでグループわの東北支援・交流活動チームに4回も加えて頂き、この度は熊本へも参加出来貴重な体験をさせていただきました。

結局ボランティアとは相手の立場に立ち、本当に欲しているのか、心底から良かったと感じてくれているかを自問自答し、それに向けて自分を磨くことだと思います。結果「本当に楽しかったよ。嬉しい」と言ってくれるのを聴き、その態度を見て人に役に立つ自分に幸せを感じる事だと思います。

(波多野 武郎 食16 KSC民謡クラブ)

障がいの子には褒めて寄り添おう 学習支援者 秋の集い開く

障がいの子には褒めて、寄り添い、根気強く接することが大切です。学習支援者の秋の集いが11月9日、カレッジ学習室で開かれ、約30人が出席しました。

堺学習支援委員長、小畑グループわ 理事長のあいさつの後、神戸市教委特別支援教育課の指導主事・後藤田和成氏(写真)の「これからの特別支援教育について」と題する講演がありました。

後藤田講師は人は聞こえ方、関心、経験、心の状態、家庭の背景がそれぞれ違う。発達障がいの子は①落ち着きがなく、授業に集中できない②すぐかっとなって、トラブルを起こす③コミュニケーションが取れないなどの傾向があります。発達障がいの子は1クラスに5、6人おり、自閉症、アスペルガー症候群、知的障がい、学習障がいなど様々です。よく見えない、聞こえない、じっと出来ないなどの特徴があります。



障害の子は「困った子」ではなく「困っている子」です。「こうしたら」「よくできたね」と子どもを尊重し、褒めること、子どもに笑顔で接することが大切です。

◆学習支援についてのQ&A◆

Q：今年の夏から特別支援を始め、図工と音楽を担当していますが、子どもの思わぬ反応に、仰天することがあります。どう接したらいいのか戸惑っています。

A：特別支援を6年続けています。最初は画材を配るまで座っておれない、周りの子に迷惑をかける子がいるのに困りました。でも、根気よく続けていると子どもに情がわき、自然に接することが出来るようになります。

A：「こうしたらどう？」と子どもに出来るだけやらせるようにしていますが、つい手を出してしまい、小3の女の子に猛反発されたことがあり、困りました。

後藤田講師：適度に距離を置くこと。子どもに寄り添うだけで情緒が安定します。声をかけて子どもに反応があれば少しだけ進めてはいかげでしょうか。

(文・写真 広報 永野知己)

仲良く楽しくパソコン授業

授業は1対1の
マンツーマン



ふたば教室グループ

ボランティア最前線

「アッ、出来た。先生に教わった通りや」。パソコン教室の受講生が「へー」と不思議そうな顔をしています。ワード文書に写真が張り付いたのです。

保存していましたが、管理が出来ず、この教室に来たそうです。系統的なフォルダの作り方を教わり、何千枚もの写真が整理できたといいます。朝日講師によると復習を欠かさな

長田区のふたば学舎(JR新長田駅南西 徒歩10分余)内のふたばパソコン教室に11月18日にお邪魔しました。教室は毎週金曜日。9時前には中田隆雄代表(食10)、講師の朝日照夫さん(国6)、井上善道さん(食5)、大野一雄さん(生17)、堀内美智子さん(福15)、田川久美子さん(食19)が準備を終え、受講生を待っていました。

授業は9時30分から11時30分まで。5人の講師と5人の受講生が隣り合わせに座り、それぞれがパソコンの画面を開きます。同じ画面を見ながら一緒にマウスを動かし、出来たら次の画面に進みます。

年賀状を筆ぐるめで作成している女性がいました。向きは縦か横か。イラストを使うか写真にするか。背景はどれにするか。豊富な文章例のどれを選ぶか。田川講師は受講生と話し合いながら年賀状作りを進めます。1対1なの

で受講生のスピードに合わせる事が出来ます。理解していない場合は元の画面に戻り、やり直し。

区会の親睦行事担当の男性はメールをよく使います。堀内講師は「住所録はグループごとに作ると便利。50音順に並べることもできる」と実戦向き。

俳画や写真が好きな男性がいました。無数のUSBに



生徒 カレッジ関係者が90%
ふたばパソコン教室 講師は14人。受講生は多い日で13~14人。少ない日は数人。70%が女性。カレッジ関係者が90%、地域の方が10%。初心者から中級レベルまで、系統だった指導から個々の質問への応答まで懇切丁寧に、受講生が納得するまで教えるユニークな教室。3~4か月通う人が多い。受講料は1回1500円で一般の教室に比べて格安です。

い熱心な方。ワードの教則本に沿って、各章を着々とマスターしています。男性は「知らないことを一杯教えていただいた」と感謝していました。

ジャイカのシニアボランティアに採用され、カレッジを中途退学、ペルーで計6年働いた女性は1年前から月に3回通っています。ペルーで撮ったビデオを整理するために、パソコンを一から習いたいそうです。

「大野講師はお助けマン。大抵のことは教えていただけます。分からない事だけのワンポイントの質問もOKなので助かります」と話していました。授業を見ていると、受講生も講師も生き生きし、仲良く楽しそうにやっている感じがしました。

中田代表は「パソコンが使えるようになってうれしい」「よくわかるようになった」などの反応があり、

着実に力を付けてゆくのを見ると大きな達成感を感じる。講師にも得手不得手があり、お互いに助け合っているとの事でした。(文・写真 広報 永野知己)

パソコン教室申し込み先：NPO法人グループ わ
TEL 078-743-8101 FAX 078-743-3830

活動 レポート

【福祉部会】エンジェル支援の会

1000足販売記念パーティ・ネパール報告会

8月8日にひよどり台交流プラザで、午前に布草履の制作、午後には1000足販売記念のミニパーティとネパール震災復興の報告会を行いました。ミニパーティにはスイカ、シュークリームなどの差し入れがありました。



ネパール報告会ではラマインドラ ジットさん

と愛のかけはしの達さんから27年度エンジェル支援の会からの支援金が、学校再建に大いに役立ち、新しい校舎で低学年の子供たちが楽しく学んでいる様子が報告されました。

(辰巳陽子 生環17)

【環境部会】ケナフの会

しあわせの村の自然を探そう

10月1日に9人の参加者を得てケナフ畑・炭焼き・紙すきを体験して頂きました。参加者は幼児・学童・父兄で、それぞれが楽しい時間を過ごして頂きました。

初めて見るケナフの花！ 熱心に説明を聞き、花摘みをしました。はじめての花摘みは、トゲで手が痛そうでしたが、直ぐにコツを覚え、花と種を持ち帰りました。紙すきをして世界でたった一つの「ハガキ・しおり」を、ママといっしょにつくり、とても楽しそうでした！



(山口昭則 生環18)

創エネ神戸 ふれあいまつりに参加

10月16日、榎野台小学校で開かれた「西区榎野台ふれあいまつり」に5人が参加しました。子どもたちへの環境教育として、ソーラーパネルで発電した電気で7つの風車を回したり、ソーラーカーを走らせたりするとともに、創エネ神戸のポスターを展示して、活動の紹介をしました。

風車が回っていたり、ソーラーカーが走っているのを見て、子どもたちは大いに関心を示していました。太陽光発電の原理を、子どもたちに判るように説明し体験させているのを見て、父兄も興味を示し、感謝の言葉もいただき、楽しい1日を過ごしました。

【文化部会】石わ会（せきわ会）

長田すみれで 囲碁ボランティア

9月23日、長田すみれデイサービスセンターで、高齢者の健康で長生き及び認知症防止のために、囲碁の相手をするボランティア活動を行いました。長田すみれデイサービスセンターは、こころとからだがやすらぎような施設づくりを目指しており、こころのやすらぎのため、好きな囲碁も楽しんでいます。



ボランティアは施設毎に、毎週、曜日を決めて、囲碁の相手をします。現在グループ員は6人で、囲碁の好きな会員を募集中です。

(川部 忠夫 健福20)

楽遊クラブ 銭太鼓交流会を開催

11月12日にカレッジホールで恒例の、楽遊クラブ 銭太鼓交流会を9グループ総勢118人により開催しました。

当日は沢山の銭太鼓ファンの皆様の前で日頃の成果をお見せし喜んで

頂きました。他地域の銭太鼓クラブの皆さんや私たちの大先輩のクラブの皆さんを迎えての銭太鼓の披露に観



客の皆様から「それぞれの特徴ある演技を見ることが出来てゆっくり楽しみました。進行もスムーズですっきりした舞台でした」とお褒めの言葉もいただき今後の励みになりました。

(阿部和子 健福11)

【東灘区会】東灘ふれあいフェスタに参加

11月3日晴天の中、今年で最後のふれあいフェスタが開かれました。東灘区会、ボランティアガイドの会、梅一つ火会の三者で「知っとお 東灘」の看板を展示して、東灘非公認検定試験を実施しました。

区長、市、区の職員を含め210の方が受検され東灘区を改めて認識されたと思います。15時の終了前に試験用紙が無くなるほど盛況でした。そして今年も地域交流会のカレッジ学生による会場清掃で、ゴミのない会場となりました。



(中谷一郎 生環15)

遊喜幼稚園・のぞみ幼稚園

9月に大根の種まきを園児と一緒にしました。

園児の小さな手に大根の小さい種を載せ所定の所に蒔きました。11月末から1月に掛け収穫します。

【中央区会】「芸術展」支援

11月22日～23日は、兵庫県民会館大展示室で“MOA美術館神戸児童作品展”の会場づくりの応援を実施しました。この作品展の応援は今回が初めてでしたが、主催者側からは作業の手順や作業中の手際良さ等、非常に良かったとの評価と感謝の言葉を頂きました。

11月24日～27日は、兵庫県立美術館ギャラリー棟で神戸障がい者公募作品展“ハートでアート2016”が開催されました。此处では作品展本番の応援だけでなく、応募作品の審査段階から延11日間に及ぶ一連の行事に、延19人が参加を致しました。毎年この作品展は、当区会として最大のイベントでもあり、参加する人も経験が豊富で、全ての応援作業は実に手慣れたものです。この様なことで、主催者側には、この作品展はグループ会員やシルバーカレッジ地域交流グループのボランティア無くしては語れないような存在になっているのではないのでしょうか。 (島ノ江繁吉 生環18)

【北区会】認知症サポーター講座を開講

9月28日にひよどり研修室で、神戸市社会福祉協議会の支援による第1回目の認知症研修講座を開催しました。認知症を学び、サポーターを養成しようという内容で、講師はキャラバンメイトの松本竹生さん(小倉台在住)。運営委員ら14人が参加。

「自分や家族が認知症では?と思ったとき、周りの人はどう対処すべきか」をテーマに、事例を挙げての興味深い話に参加者は熱心に耳を傾けました。

まず認知症は病気であるという認識を持つこと。脳の機能が衰え判断力や感情のコントロールができなくなる。じわじわと脳細胞が侵されるので、自分も周りも気づかないことが多い。古い記憶は残るが、昨日やったことは忘れてる。本人は自尊心が強いので「ダメ」「いけません」といった否定的言葉はかけない(病状を悪化させる)ーなどがポイントでした。終了後、全員が認知症サポーターの登録をすませ、オレンジリボンをつけて地域で活動することになりました。 (南形 徹 生環14)



閑谷学校・赤穂へ親睦バスツアー

11月16日、秋晴れの大変暖かい絶好の行楽日和の下で32人が参加。江戸時代に岡山藩主池田光政によって創建された、岡山藩直営の庶民教育をすすめた閑谷学校と赤穂市立海洋科学館などを巡りました。海洋科学

館は海洋・塩・そして赤穂についての学習の場で「瀬戸内海と塩」をメインテーマに「塩のギャラリー」、「海を知ろう」等4つにわけて展示されていて、塩の国は、揚浜式塩田、入浜式塩田、流下式塩田など、かつての製塩技術を復元した施設で、実際に塩づくりを体験し楽しみました。



【長田区会】西市民病院の花壇の植栽植え付け
植栽ボランティア「緑の会」の6人は、9月8日、神戸市立西市民病院の玄関前と6階庭園の花壇に、除草してトレニア240株などの植え付けを行いました。緑の会を始めて2年が経過しました。外来の患者様から「花壇の花がいつもきれいで心が癒されます」との感謝の言葉も頂いています。 (太田治彦・生環17)



歴史探訪 灘の酒蔵探訪

11月28日に、うまい酒を求めて酒蔵探訪を行いました。参加者は女性3名、男性6名、合計9名。

コースは阪神魚崎駅⇒菊正宗酒造記念館⇒六甲おろしと酒蔵⇒白鶴酒造資料館⇒剣菱本社⇒旧西国街道⇒神戸酔心館(福寿)⇒乙女塚古墳⇒こうべ甲南武庫の郷(昼食など)⇒阪神新在家駅。東灘ボランティアガイドの会の皆さんにガイドをして頂き、多くの酒蔵で楽しく試飲をしました。 (太田治彦・生環17)

【須磨区会】デイサービスに付き添い介助

須磨区会では11月24、25、28～30日の5日間、10人のボランティアを動員、名谷すみれ苑のデイサービス利用者の外出に付き添いました。行き先は須磨海浜水族園。施設のマイクロバス2台を出し、利用者は1台に4、5人ずつ乗ります。

水族園の正面の大水槽では悠悠と動き回るエイやサメに目を奪われ、イルカショーでは水面のはるか上に飛び上がる体長4メートルの姿に圧倒されました。



園内のレストランでは思い思いの料理を注文、秋の半日を楽しみました。 (永野知己 生環18)

支援学校生のトライやるに付添い

9月26～30日、青陽須磨支援学校中等部2年生の〈トライやるウィーク〉に6人が参加、付添いボランティアとして延べ13日活動しました。〈トライやる〉に参

加した生徒は29人、そのうちの9人を当区会メンバーが担当しました。受入れ事業所は、神出自然教育園(農作業)・北須磨文化センター(図書室、プール)・神戸聖生園(創作活動、レクなど)・じゅうしん須磨寺(さおり織など)・ピータンハウス(陶芸作業)でした。支援した一人は、先生方のご努力や受入れ先の配慮を間近に見るにつけ、せめてこの程度のお手伝いはしなければと思ったそうです。

(細野恵久 健福3)

奥須磨公園でウォークラリー大会

第4回ウォークラリー大会を、10月23日9時から奥須磨公園で開催し、14チーム41人が参加。あいにくの曇り空でしたが、「仲間に会えて、おしゃべりして、森の空気にひたって、ほんま楽しかった」と好評。



途中に11のチェックポイントがあり、うち5か所ではクイズを出題。このクイズにはみなさん「正解はA」、いや「D」と頭をひねっていました。各チームは71分から125分でゴールに到着、口々に「気持ちよかった」と話していました。

(永野知己 生環18)

【垂水区会】介護老人保健施設 秋祭り支援

10月15日、垂水区ボラセンから秋祭りへの派遣協力要請があり、行政支援チームと役員会から計5人が参加。焼きそば・鳥カラアゲ・ジュース類の販売担当員として支援活動をおこないました。

約450人とたくさんの方が参加され大賑わいの楽しいイベントで、販売を担当した“焼きそば”などでは販売開始から長い列ができ、大忙しでした。

紅葉ドライブ付き添いボランティア活動

11月14、15、16日に、それぞれ2人ずつ、垂水区ボラセンから名谷すみれ園の紅葉ドライブ付き添いの協力要請があり、延べ6人が参加しました。

車椅子仕様のワゴン車2台に分乗をして施設側からそれぞれ介護士の方を含め4~5人と、それに我々会員2人が参加をして“しあわせの村”日本庭園の秋を散策「紅葉」を鑑賞しました。



曇天の日もありましたが幸いに3日間とも雨に出

会わず、ちょうど見頃の紅葉に参加の皆さまは久しぶりのドライブでもあり「キレイネ! 綺麗ね!」と大変喜ばれ大変楽しんでおられました。

高塚山一太山寺を散策

9月21日に近郊の高塚山(徳川道)癒しの森~太山寺コース散策を実施し8人が参加しました。

開催日は台風一過の秋晴れではなく曇天でしたが、雨も殆ど影響なく、陽射しもなく、散策には絶好の1日となり、眺望も素晴らしく、予定通り無事にイベント活動を終了しました。

【西区会】美山町かやぶきの里 バス旅行

大型バス1台に46人が乗車し、西神中央ホンダ自動車前を8時に出発。

山陽道、中国道を通って、三田ICを下り有馬富士公園を見学。舞鶴道、若狭道を通って、舞鶴西ICを下り舞鶴とれとれセンターで(買物)を楽しみ、舞鶴西IC若狭道経由し、若狭マリンプラザでビール付きの豪華な昼食を楽しみました。



昼食後は今回の目的地美山町かやぶきの里を2班に分かれボランティアガイド2人の詳しい説明を聞きながらかやぶきの民家を探索、国の重要文化財が多数ある安国寺を参拝し、舞鶴道、中国道、山陽道を経由し、18時45分頃西神中央に無事到着しました。

(編集 広報 岡本絨一)

カレッジだより



21期グループ学習発表会

28年度のグループ学習発表会は、11月21日の食文化専攻をスタートとして、2月24日の音楽文化専攻まで、約2か月間にわたって行われます。

☆各コースの発表日は次の通りです。

- 健康福祉コース (12月 8日)
- 国際交流・協力コース (12月12日)
- 生活環境コース (1月27日)
- 総合芸術コース
 - ・美術・工芸専攻 (2月17日)
 - ・音楽文化専攻 (2月24日)
 - ・園芸専攻 (2月 3日)
 - ・食文化専攻 (11月21日)

WAからのお知らせ



文化部会に新グループ誕生

石わ会（せきわかい）（川部忠夫代表 6人）

今年の7月に長田区社会福祉協議会の馬場がラティアーコーディネーターとお会いした時に、長田区の施設で囲碁をしたい通所者がおられるとの話があり先方にお伺いしました。長田すみれティーサービスセンターで、介護相談員の中嶋さんにお会いし囲碁を希望されているY氏にお会いしました。年齢は、82歳で第一印象は非常に温厚で施設には囲碁を楽しみに通所されているとのこと。先日までは、施設職員がお相手をされていたとのこと。

わ本部に戻ってお相手をしてくれる、グループわ 会員で囲碁をする仲間を募りました。カレッジの同期で囲碁クラブ員でわの会員の4人に電話で相談したところ全員快く引き受けってくれました。早速長田区の馬場さんに連絡し、9月から対応することにし毎週金曜日の10時からお相手する4人の当番表を作成しました。

11月初めには、同じ長田区の長田ケアホームからも話があり、1月から対応することにし会員を一人増やし私を入れた6人で対応することにしました。更にメンバーが6人となったことで、〈わ〉の部会（文化部会）に入会することでメンバーの了解を得“石わ会”とすることで登録し現在に至っています。今後需要が増えれば会員をもっと幅広く（20期以外）募る予定です。

フルーツクラブ・ジークレフ（中野悦子代表 2人）

フルーツの合奏を通じて、一人一人がお互いの音をよく聴き、美しいハーモニー正確なリズムを体得し、各自の技術を高めると共に、さまざまなジャンルの曲をレパートリーに持ち、全員が気持ちを合わせ心を込めて演奏し、その発表の場を広げていきます。KSC学園祭応援出演やクリスマスコンサートに出演しており、これらのイベント出演と共に施設等でのボランティア演奏を行います。

また音楽を作りながら、部員相互の親睦も深めていきたいと思えます。

●**ボラセンから77,611円** 入学式・学園祭で、〈わ〉と共同で実施したサポート募金の一部、77,611円が〈わ〉に寄託されました。賛同して下さったKSCの皆さまにお礼を申し上げます。

●**廃部** 新舞踊クラブが廃部になりました。

●78号（4月号）の発行2017年4月中旬です。

グループ わ に参加して

3年間ではありますが、グループ わ の事務局に在籍し、〈わ〉に加入しているグループの活動のお手伝いをさせて頂きました。その広範な内容をいろいろな対象者や場面に応じて真摯に分かりやすく披露している様子に接し、感動致しました。

私は初年度は広報担当として、いろいろな行事やグループ活動の取材、写真・ビデオ撮影またお手伝いなども経験させて頂きました。

2,3年目は都合により事業部に移動しましたが、1年目に殆どの行事、グループ活動を体験させて頂いたこともあり、何とかお手伝いすることができました。今年は〈わ〉が結成20周年を迎えることとなり、記念行事実施についてテーマごとに準備が進んでいるようです。ここまで来られたのも先輩方の大いなる活躍によるものと思われまます。さらにこの活動が30、40・・・年と発展していくことを願ってやみません。（北村 洋 前理事 生環17）



編集後記



★長田区のふたば学舎内で開いているパソコン教室の授業は1対1のマンツーマン方式。街中の教室では、1人の講師が講義方式で進め、生徒の理解は置き去りにされがち。マンツーマンだと生徒は、その場で自分が分からない箇所を分かるまで教えてもらえ、スピードも生徒の進み具合に合わせるので身につくようです。（永野知己）

★ホームページに皆様のご活躍を出来るだけ多く掲載して、会員相互の情報交換を盛んにするために、H28年は400件以上を目標に情報掲載をしましたが、皆様のご協力により405件の情報を掲載することが出来ました。有難うございました。本年もご協力をお願いします。（岡本紘一）

★20周年記念DVDの内容充実に向け、区会長の皆様及び各グループ代表の皆様にご説明の校正と写真の提供をお願い予定です。【1月末⇒4月末】20周年記念行事を通じて、グループわ の活動を、より多くの皆様にご理解頂くことで、組織強化の一助になればと頑張ります。（藤田健一）

グループわ 本部のメールアドレス

広報・ホームページ wa_gallery@wa-net.jp

代表・総務・学習支援 group_wa@wa-net.jp

事業・パソコン教室：wa_support@wa-net.jp

熊本地震サポート隊特集



赤井仮設団地

民謡の
のって踊ります



住民の皆さんと一緒に記念写真



ト
ピ
ッ
ク
ス

小池島田仮設団地

井吹台児童館からのお土産



楽しいね
手話ソング



出来たよ明石焼き



安永仮設団地

間もなく、たこ焼き &
お好み演芸会が始まりまーす



おいしいネ 明石焼き



飯野小仮設団地

三味線にあわせて民謡 ストレス発散



支援メンバーの
集合写真

写真 古後健一（福18）・細越さん（市社協）